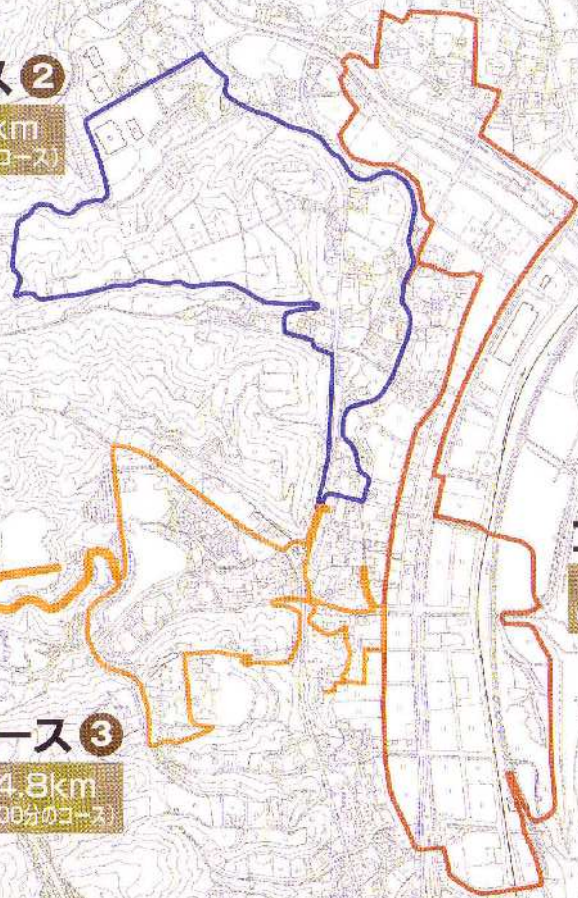


コース②

約3.5km
(約60分のコース)



コース①

約5.9km
(約100分のコース)

コース③

約4.8km
(約100分のコース)



コース④

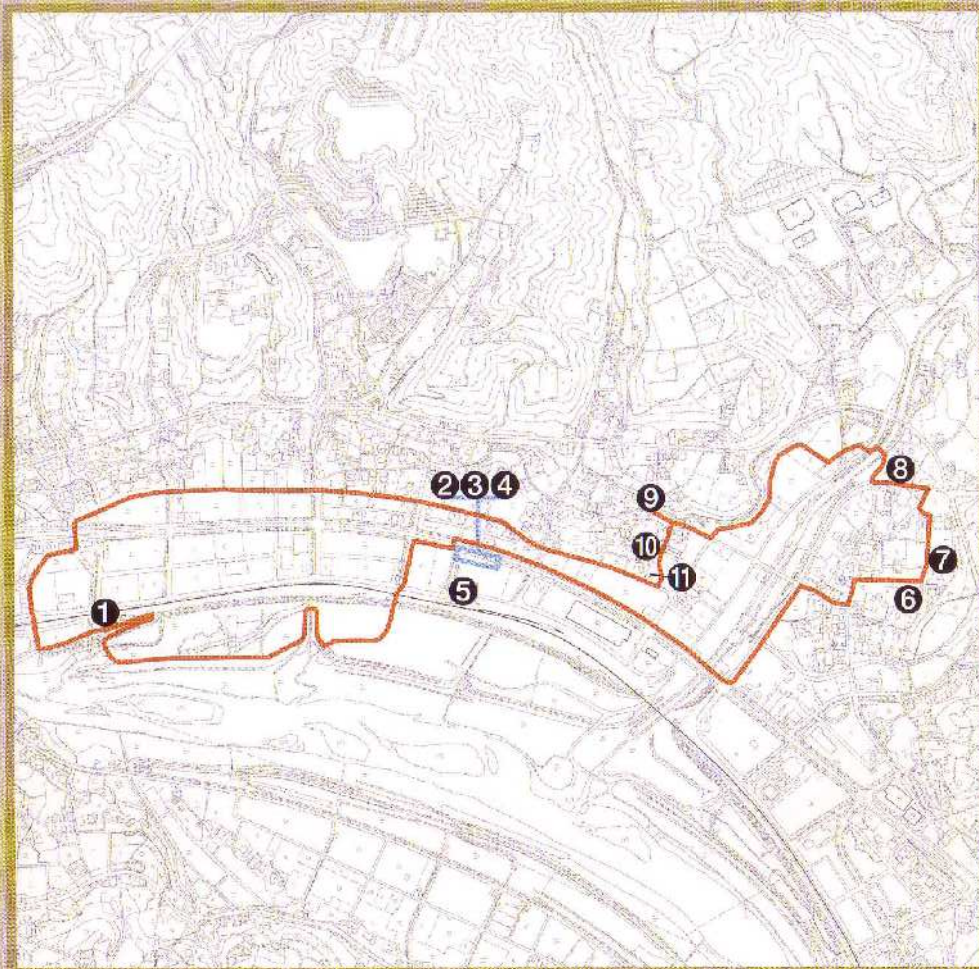
約4.7km
(約80分のコース)



準備をどこのえて
さあ、出発!!

- 帽子をかぶりましょう
- 服装は歩きやすく、ゆったりしたものを。
- 水筒・食べ物・雨具・救急品・ハンカチ・ティッシュを持参ください。
- はきなれた靴で歩きましょう。

コース①



約5.9km (約100分のコース)

- ①かわらんべ→天竜川旧堤防を北上→川路駅前(②貫朝歌碑・③川流不息碑・④治水対策事業完成記念碑)→⑤川路駅→⑥考古資料館・⑦開善寺→⑧御猿堂古墳→⑨中平家(井ノ上)蚕室・⑩関島家(屋敷)蚕室→⑪久保田一号古墳(旧正清寺古墳)→かわらんべ

コース①

①かわらんべ

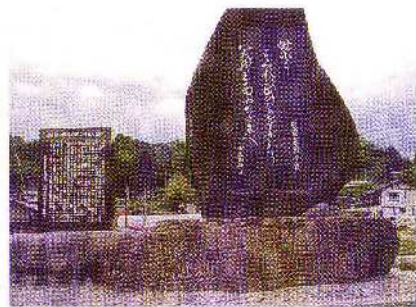
「天竜川総合学習館」が平成14年7月に、愛称「かわらんべ」としてオープンしたもの。「水辺の楽校」や「かわらんBAY」が隣接し、流域の自然、環境、文化等を、体験的に学習できる施設で、さまざまな内容の「かわらんべ講座」が開催され、毎回大好評を得ている。

非常時の防災情報をいち早く収集・発信できる施設も整えている。



②實朝歌碑

これは36災20周年を記念して昭和45年に建てられた頼朝の次男鎌倉三代将軍實朝の歌で、「金槐和歌集」の最後にある。「建暦元年7月洪水天を浸す、土民心愁軟せん事を思ひて一人本尊に向ひて聊か念を致す」と詞書がある。實朝の祈りが川路の治水にも実現してほしい願いがこもる。



③川流不息碑

平成の大治水事業を川路水害予防組合は、法線位置、堤防の高さ、漬れ地の扱い、盛土後の土地利用など激論の末、昭和60年1月決定したが、訴訟問題などがあり事業完成には20年近い歳月を要した。

この重い経過と、この地の清らかな発展への願いのこもった完成記念碑。「川の流れは息まず乾坤(この天地)は清泰(清しく安かれ)」



④治水対策事業完成記念碑

浸水家屋225戸、被害者1,039人の昭和36年大洪水。昭和60年のダム水利権更新期を目前にして治水対策が緊急事業となった。

国、県、市、中電の四者は盛土高、費用負担など協定を結び、平成5年龍江地区から治水工事に着手、平成14年全区域の工事が完成。

盛土面積97ha、盛土量421万m³。総工費470億円、堤内全域を盛土し、ダム影響完全排除という全国的にも稀な治水工事の記念碑。



⑤川路駅

旧川路駅は戦前「伊那川路駅」と呼ばれた。昭和2年営業以来、駅前銀座と呼ばれるほど賑わった商店街の中心で乗客も多かった。

それが36災、58災では屋根まで水没。町並みは消え、駅も無人駅となった。

平成13年軌道移設に伴い駅舎も新設。盛んだった川路の養蚕に因んでマユをイメージして作られたという。

⑥考古資料館

この資料館は、昭和45年より開始された中央自動車道建設に伴う発掘時の出土品を初めとし、それ以降飯田市内の遺跡から発掘調査により掘り出された土器・石器・金属器・木器などを収蔵・展示している。

館内に入り数々の遺物を眼の前にすると、郷土の祖先が歩んできた遠い歴史に思いを馳せることができる。



⑦開善寺

開善寺は、京都妙心寺を本山とする臨済宗の禅寺。鎌倉時代末期に創建され、南北朝期の建武2年小笠原貞宗が中国から高僧を招いて開山したとされる。

国重要文化財の山門や国の重要美術品の鐘楼「吼雲楼」のほか、裏山の「飛来峯」、本堂前の苔と石楠花の庭園「般若苑」など四季折々の姿も楽しめる。



コース 1

⑧ 御猿堂古墳

開善寺の南方100mにある長さ66m、高さ8.5mの前方後円墳で、県の史跡指定を受けている。横穴式石室で中に入ることができ、玄室は奥行10m、巾2.2m、天井は大石7枚のりっぱな石室である。出土品は勾玉を初め豊富であるが、中でも四仏四獣鏡（開善寺蔵）は一級品で、国の重要文化財に指定されている。建造は6世紀前期と推定されている。



⑨ 中平家(井ノ上)蚕室

この蚕室は大正7年の建築である。縦6間×横8間の3階造りで、総面積517.5㎡である。1階には貯桑場（床はコンクリート）がある。地形上2階が道路と同じ高さになっており川路では最大級のものである。養蚕最盛期に於ける総取繭量は相当多かったと思われるが数量的には不明である。



⑩ 関島家(屋敷)蚕室

この蚕室は明治41年頃、3代前・4代前の当主が自家の山より材を切り出し自力で建築したものである。

建物の大きさは縦11間×横2.5間。総面積141.9㎡の総2階造りである。1階は物置きや貯桑場（床はコンクリート）がある。養蚕の最盛期は総取繭量は4,605kg（1.228貫）であった。養蚕に従事した人数は4人であった。

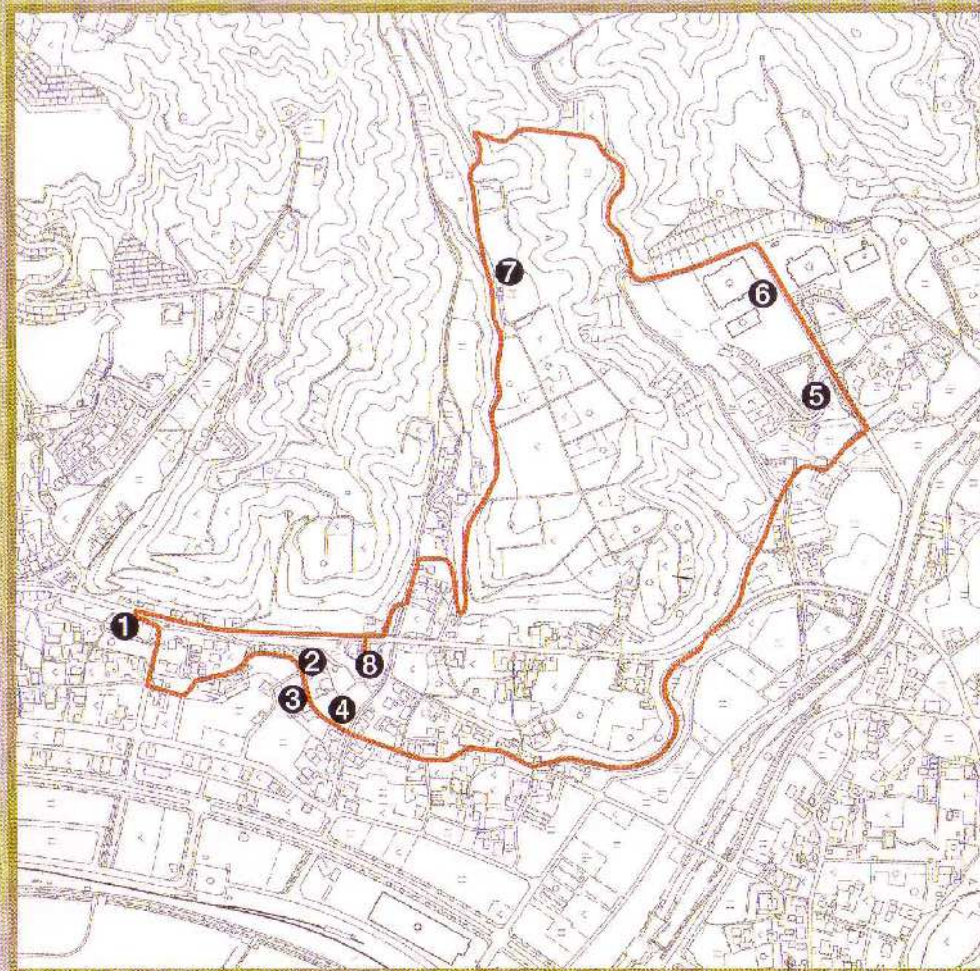


⑪ 久保田一号古墳 (旧正清寺古墳)

治水工事として行われた盛土工事に先立ち、平成9年度から発掘調査をした古墳。県内最南端、最低地にある前方後円墳である。この地一帯には、縄文から奈良時代にかけての遺構が確認されているが、特に古墳時代の遺構が多く、遺物も多く出土しており当時の集落の様子を知る貴重な手がかりとなっている。



コース 2



約3.5km (約60分のコース)

- ① 川路公民館 → ② 下辻古墳 → ③ 旧下條街道 → ④ 辻前蚕玉神社他
- ⑤ 針葉樹埋没林 → ⑥ 一本木平工業団地 → ⑦ 琴原神社
- ⑧ 御射山古墳 → 川路公民館

コース②

①川路公民館

川路公民館は、昭和57年3月に多くの住民が期待する中完成した。かつては寺子屋や歌舞伎舞台、小学校があったところに、昭和36年の水害の際にやむなく川路支所を急ごしらえて建設し、その2階を公民館として使用していたという。そのため、理想的な独立公民館を建設し、川路の文化の中心としていくことは川路住民の悲願であった。

現在は市内でも比較的古い建物となり、より使いやすい自治振興センター・公民館となるべく移転新築の検討が始められている。



②下辻古墳

川路には46基古墳があり、内11基が墳丘を残すと「村誌」にある。しかし玄室を留めるのは、この下辻古墳だけである。御射山台地の崖下に、斜面を利用してわずかに盛土し、墳丘上に祠があり、衣冠束帯の御神体が祀ってある。

盛土の割に玄室が大きく、玄室底面が地平面にあるのが注目される。馬具・玉類・土師器(はじき)などが出土した。

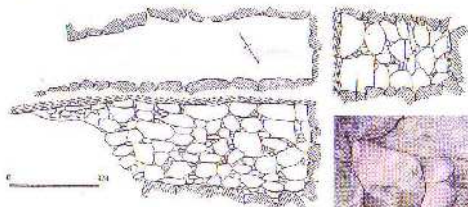


図 2-1 下辻古墳の平面図と断面図
平面図は、堀内実雄氏の調査によるものである。



③旧下條街道

飯田から八幡・下川路・山田河内・新野を経て遠州に通じる道路の当地名。街道の名称はその行く先を称することが多く、下川路村では、江戸時代から明治初めまで一貫してこの名で呼んでいた。

道路は2.5mくらいの狭いもので、その道筋は、峠や川・山の裾それに村の中心地・寺社の門前等種々に開くが、川路はおよそ下図のとおり。但し、36災のため特に上地区においては、今、その面影を残す所は殆どない。



④辻前蚕玉神社

蚕玉神社・秋葉山・象頭山(金比羅様)の三社が祀られている。旧151号線の3区峠の高台に同様の神社があり3区下平の氏が祠っていた。従ってこの辻前のものは辻前平のみなさんが祠ったものだ。

以前峠にあったものは治水対策事業に伴い琴原神社境内に移された。



⑤針葉樹埋没林

一本木平の土取場、花御所地籍から、針葉樹の埋没樹が10×20mの中に十数株発掘された。当時河原に生えていたものが、36災の様な洪水で厚さ2mの土砂に埋まったもの。

氷河時代の終わり頃で、現在のヒメバラモミの天然分布からみて、今より6~7度も寒かったと考えられる。



コース②

⑥ 一本木平工業団地

以前は、桑園と一部山林であったが、36災害のあと、河原の埋立りにこの一本木平地籍から土が搬出され、総面積64,800㎡が確保された。振動に強い地盤であり、特に静かな環境と条件がよく、工業団地として立地され、現在、4企業が進出している。



⑦ 琴原神社

琴原神社の創建は不明だが川路では最も古い神社と思われる。祭神は大山祇命(おおやまずみのみこと)・高御産霊神(たかみむすびのかみ)・神産霊神(かむむすびのかみ)。古く逢初山神(あいぞめやまのかみ)・琴原明王山神と呼ばれ、現在名は天保7年から。社殿の立派さは川路随一。杣人(そまびと)の信仰篤く、昔は祭礼に賭場が開かれ川路若連が仕切った。

摂社跛山(せっしゃちんばやま)の神は、南北朝の動乱を逃れてこの地に住まれたという後醍醐天皇の皇妹(第七皇女とも)巖子姫(いつこひめ)を祀り、足の病に靈験があると今も信仰されている。

木彫の御神像は倉沢興世昭和34年の作である。その他社碑多数。

例祭は4月6・7日、10月6・7日である。



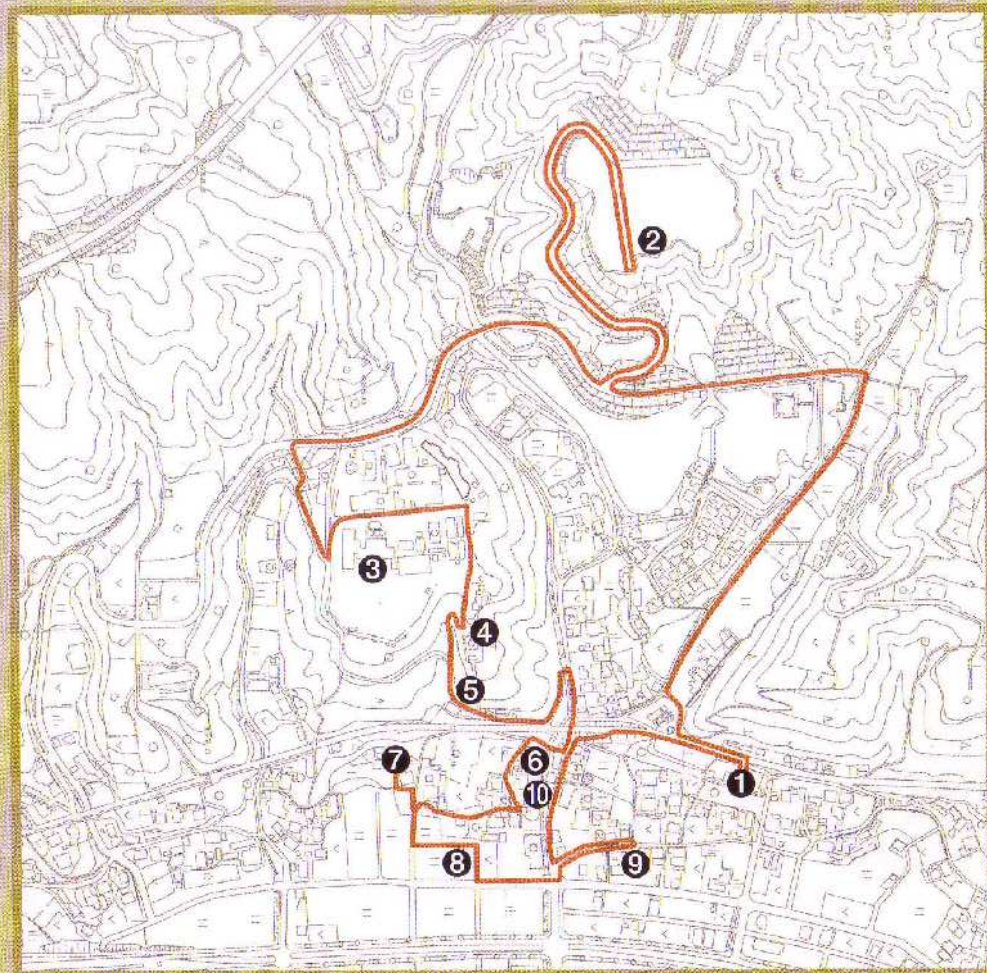
⑧ 御射山古墳

有名な「川路の糸桜」のあるところ、墳墓らしきものはあるが、発掘された形跡はない。果たして古墳であったのかどうか?以前この付近から矢尻石が出たことは事実だ。

糸桜の下に、今村栄太郎(茂穂)(今村正業の祖父)今村米子(今村正業の母)二基の歌碑がある。



コース③



約4.8km(約100分のコース)

- ①川路公民館→②城山土取場跡→③川路小学校→④川路神社→
⑤川路神社下石造物群→⑥槽谷磯丸歌碑→⑦下ノ寺→
⑧大荒神祠と遺跡殿村古墳群→⑨扇屋、菊五郎の松→⑩津島神社→
川路公民館

コース③

②城山土取場跡

天竜川治水対策事業には膨大な盛土が必要であり、川路では一本木平と城山を土取場として盛土の採取が行われた。

城山土取場は13.4haの開発面積で、ここから103万㎡の土が採取された。かつては頂上に山城があったとされる。土取場からの眺望はすばらしく、それを活かした整備や利用が望まれる。



③川路小学校

伊那谷を襲った36災害で壊滅となり、昭和38年ここ標高436mの上平に移転(同62年耐震構造に改築)現在に至る。

児童数は100人余と減少傾向(6・3制での最多は昭和26年度の472人)、校歌は明治38年に制定され、歌碑が玄関横にある。校門は天龍峡3代目の姑射橋がかけかえに際し、その橋柱と袖垣を昭和46年に移設したもの。

校名は元飯田市長の松井卓治氏の揮毫、門かぶりの松や、玄関前の梅は、水つき学校から移植したものである。

(村誌、小学校の百年より)



④川路神社

川路神社は、川路の産土神(うぶすながみ)、総鎮守の八幡宮。主祭神に誉田別尊(ほんだわけのみこと)の応神天皇、更に大鷲鷲命(おおさざきのみこと)の仁徳天皇、天兒屋根命(あめのこやねのみこと)、菅原道真公の四祭神が奉祭されている。

文禄2年に京都石清水八幡宮より勧請された祢宜屋平の上(かみ)の宮と、寛永14年大畑山より遷宮の東原の下(しも)の宮とが、大正4年に現在の甲子山に合祀された。

本殿は、旧上の宮より、拝殿は、旧下の宮より移築され、幣殿はその折新築された。毎年4月・10月15日の例祭をはじめ、諸々の祭事が執り行われている。



⑤川路神社下石造物群

この場所におよそ70基余の石造物が存在し、川路神社と併せ川路の聖地と申しても良い処。石段の左右には明治以降太平洋戦争までの従軍の碑、満州分村の開拓の碑、災害復興の碑等、村の苦難の歴史と祈りが秘められた碑の数々が静かに立つ。そして上から見て右側、少し入って林を開いた狭い平地に三十三番観音と馬頭観音が並んでいる。これは昔、伊豆木街道に点々と祀られていたものを、県道田中乱橋線付け替えの後にここに合祀したものである。

さらには、川路では2番目に古い阿彌陀仏石像・下伊那屈指の上作観音講中仏もあり、昔の旅路を偲ぶよすがともなる。



⑥糟谷磯丸歌碑

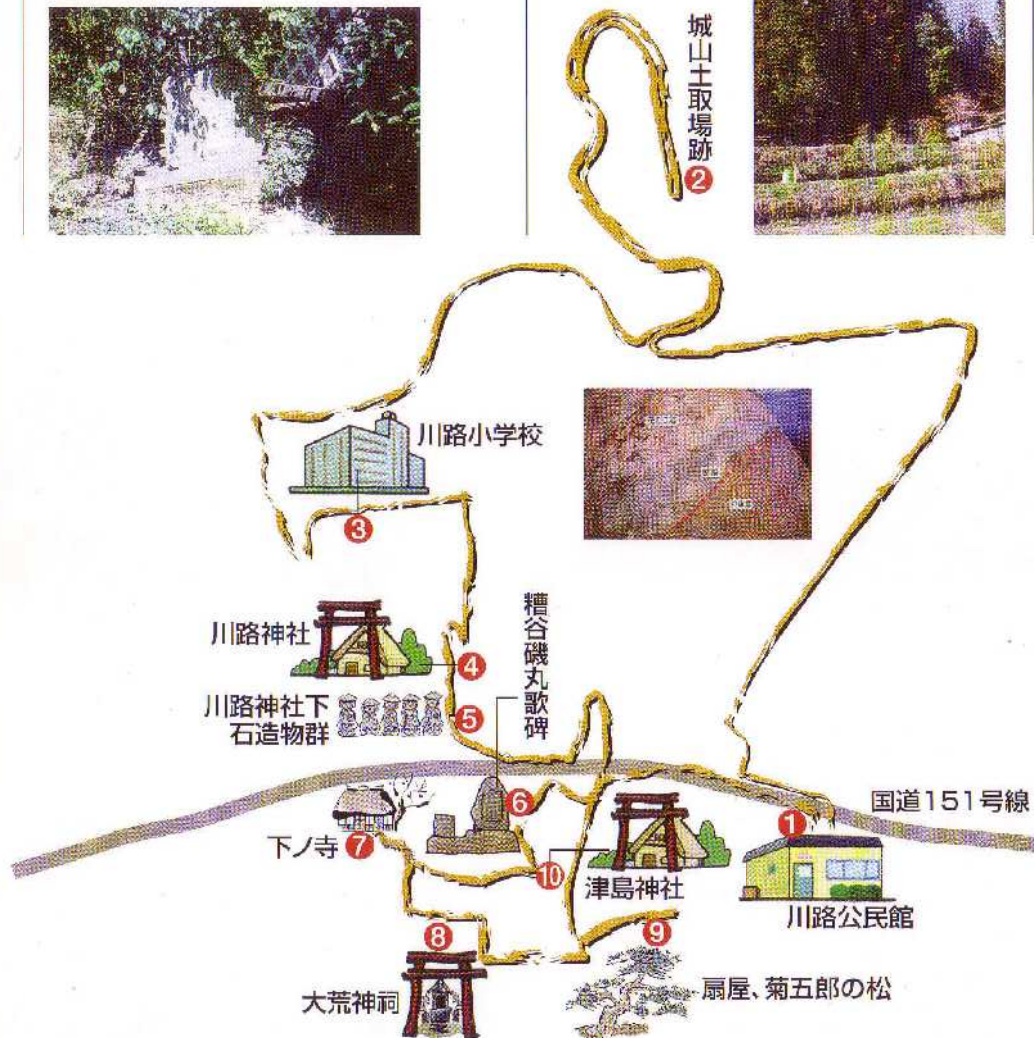
読みにくいが、「水よけのうたこひければ」と詞書し「もとのふち もとのせをゆけひと筋に水もみちあるみよまもらば。八十一翁磯丸」と真筆で刻まれる。碑陰は「嘉永四年亥十二月。牧内伊平太建立」この牧内家は今はない。

磯丸は本名糟谷半之丞、明和元～嘉永元(1764年～1848年)伊良湖の元は文盲の漁師。26歳の時母の病氣平癒を祈って歌を詠み、以来歌の道に入って、後には歌聖として仰がれるまでになった。天真の歌には禁呪(まじない)の力があると信じられた。



⑦下ノ寺

下ノ寺は、現在はお堂と石仏六基程の廃寺なのだが、川路で一番古いとされる石像がある。その石像には「円寂 一空栄荷首座禅師 元和五癸未四月□四日」と刻まれている。その僧は緋の法衣着用の方とされ、ある時代は相当なお寺だったと思われる。尼寺だったのか墓石が多いが、全く記録は無い。昭和15年頃までは近くの下ノ寺井戸から湧く名水を使って、4月8日瀧仏会に甘茶が振る舞われた。



コース③

⑧大荒神祠と 遺跡殿村古墳群

大荒神(おおこうじん)の塚と呼ばれる古墳丘。樹齢四百年余と推定された大榎が有名であった。墳丘上には、祀り始めの時代は定かでないが、殿村平の屋敷神として大荒神、古墳の霊神が祀られていた。時を経て、江戸の文政年代には仏事供養塔が建立、安政年代には秋葉と金比羅両権現が勧請されて、以降常夜燈の灯が絶えなかったと伝えられている。

36水害では泥流を被る災禍に遇い、その後の治水埋め立て工事により昭和43年、祠・石碑など全て、山の上の甲子社に遷座された。一帯には、殿村一号など四基の6世紀ごろ築造の円墳が確認されており、埴輪・土師器・須恵器などが出土している。特に舟形埴輪は細部まで表現されており、遺跡から出土したことと共に考古学上貴重な発見として注目されている。

天龍川流域当地方の最低位置の古墳として注目されたが、埋立により、現在は跡形を留めない。



「出土した舟形埴輪 所蔵:飯田市考古資料館」

⑨扇屋・菊五郎の松

この松は天保5年(1834)三代目尾上菊五郎が植えて行ったものの二代目の松である。元は扇屋代田家の庭にあったが治水事業で上段に移植されたものの枯れ、平成3年6月、来飯の十二代目市川團十郎によって、植樹されたものである。

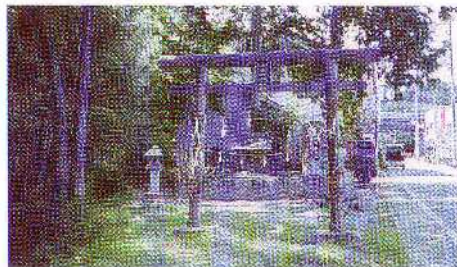
菊五郎は盗賊を避け、植木屋に扮して松を曳いて来村、総勢77人、12日間興行した。



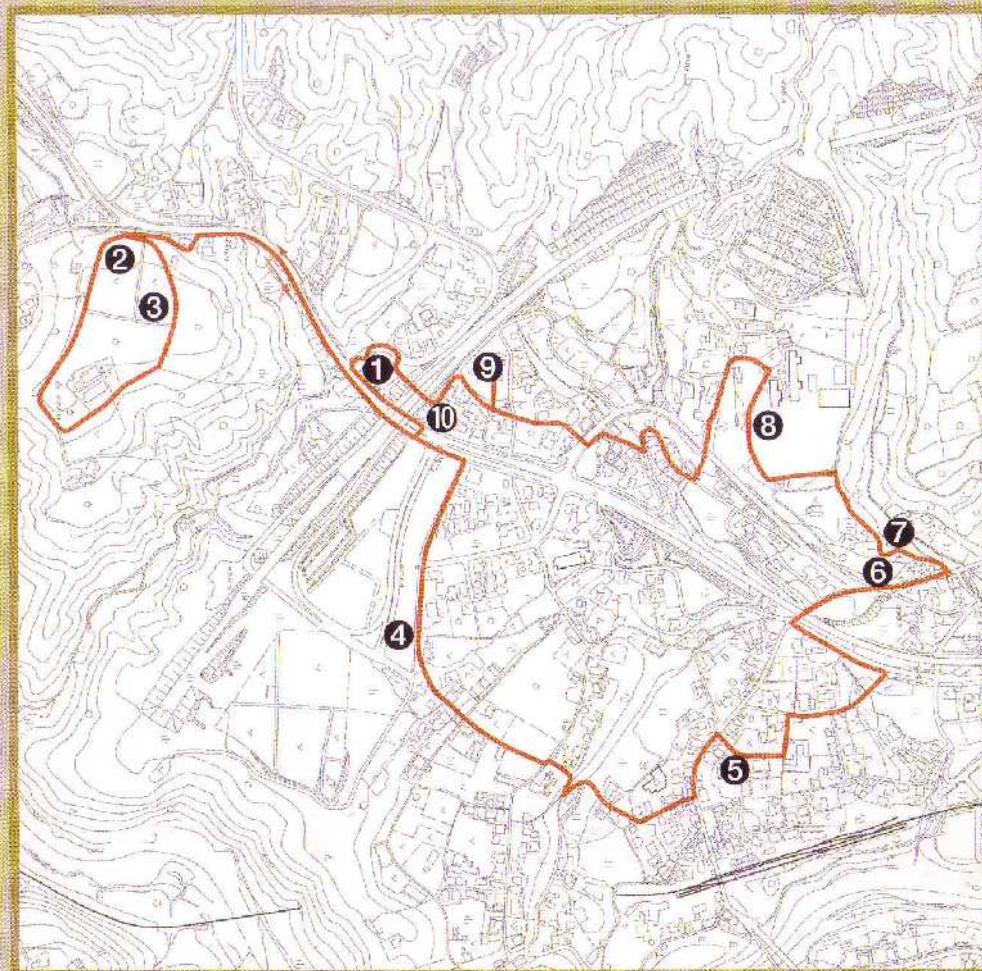
⑩津島神社

この社は宝暦10年(1760)津島市の津島神社を勧請したものと伝えられる。

宝暦3年以来天竜川をはさんだ龍江との境界線争いが江戸表で決着した喜びと、度重なる水害がなくなることを願い勧請、お囃子を奉納した。川路祇園囃子の始まりである。祭神は須佐之男命、牛頭天王ともいいお天王さまで親しまれる。秋葉、金比羅権現は白隠筆ともいわれ、蛭玉霊神は前田龍川筆である。



コース④



約4.7km(約80分のコース)

- ①8区公民館→②二タ井→③中原の果樹団地→④交換分合の碑→
⑤ネズミサシ→⑥藤居寺→⑦藤塚・お富士山→⑧竜峡中学校→
⑨諏訪神社→⑩竜西一貫水路→⑪8区公民館

コース 4

① 8区公民館

平成7年三遠南信自動車道飯橋道路のICの開設計画によって、公民館の移転が余儀なくされ、それを機に、現在地に、木材をふんだんに使用した解放感溢れる空間と利用し易さを考慮した平屋建ての新公民館が建設された。

完成の翌年「平成17年度飯伊地域景観賞」に輝き、優れた景観の形成に貢献している建築物と認められた。



② 二夕井

二夕井は、川路の最南端に位置し、周りを山に囲まれた段々水田地帯の洞で、底を下瀬との境の弟川が流れている。

地勢上、水を得るに難しく、先人たちは格段の苦勞を払い水路など切り拓いてきたのであった。慶安の検地帳には、すでに「二夕井」の地名があり、上と下二つの水路ができて、「二夕井」と呼ばれるようになったと考えられる。

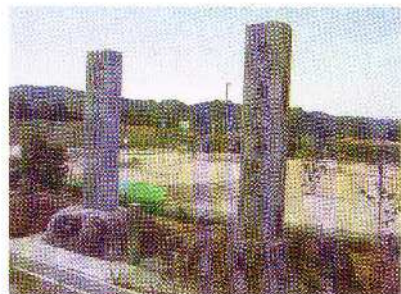
古くは、戦国時代、下條勢と松尾小笠原勢との「二重峠の合戦」が有名である。



③ 中原の果樹団地

養蚕業の低迷を迎え、農業の近代化を図る中、昭和58年果樹総合対策事業を実施し、中原地区に1.8haの果樹団地を造成した。品種は赤梨「幸水」「豊水」だったが、その後新品种が開発され「南水」等が導入されている。

栽培者は当初6名で、薬剤散布等はすべて共同防除等を行っている。



④ 交換分合の碑

日本の三大桑園の一つといわれた川路地区は、戸当累地面積52aと小規模経営で、耕地は分散し、農業の発展を著しく阻害してきたので、農業総合計画の一環として、昭和29年から34年にわたり、農地交換分合事業を実施し、指定面積360haと移動面積111haを完遂した。さらに、琴原・大明神原等5地区は、区画整理と農道を開設して作物の集団化・機械化等、農地経営の基盤が確立された。

この碑は、この事業を記念して、川路村農業委員会が昭和35年に建立したものである。

一方、新しい時代の要請により、大明神原地区には、三遠南信自動車道天龍峡インターが設置され、南信州の玄関口としての役割が期待される。

⑤ ネズミサシ

ヒノキ科の常緑針葉樹で雌雄異種。ネズミサシはネズ(杜松)の異称で、ネズミの通り道に置くと針状の葉がネズミの進路を塞ぐのが由来。この木は、雌株で高さ約20メートル、目通りの幹回り3.5メートルで樹齢1000年と推定され、県下1位、全国で2位。巨木信仰の対象として、樹下に金比羅様、秋葉様、津島様などの石神が祀られている。

昭和43年3月21日、県の天然記念物に指定された。



⑥ 藤居寺

史実は不明であるが寺の略縁起によると、元亀天正年間、幾島城に近く、幾島淡路守関係の寺であったが、小笠原氏と下條氏の争いの際滅亡、寺の維持者も失って廃寺の如くになった。その後寛永の頃、堂宇を再建、住職も幾代が居住したが、徳川末期以降、庫裏壊朽、再々建等の歴史を経て今日に至っている。昭和39年国道開通の折り、お堂はそのまま南へ50m程移って現在地。地元氏子衆が管理。

西国第九番札所、本尊は聖観世音菩薩。堂庭には、弘法大師坐像他幾つかの石仏石碑が立っている。



コース 4

⑦ 藤塚 お富士山

藤居寺から竜峡中学校に至る急な坂を上りきった、藤塚原の東北端にある小丘。その雑木の中に、「富士大神宮」の石碑が3基ある。このお富士山は、江戸時代の中ごろ、富士山の浅間神社を崇敬する富士講の人たちによってその神霊をお迎えし、富士山を模した塚を築いて祭祀したことに始まる。

そして以降61年毎の庚申歳に、講中の信者は、各一畚（モッコ）ずつの土を運んで塚の上に置き、松を植え、餅を投げて祭りをしてきたと伝えられる。8区の富士講は広がったが、ここは村中の祭であった。



⑧ 竜峡中学校

竜峡中学校は、昭和37年4月1日に、川路、三穂、龍江の三地区の中学校を統合した「飯田市龍江村中学校組合立統合中学校」として発足した。その後、伊那山脈を望み、天竜川を見下ろす、川路地区藤塚の地に校舎を移転して、昭和40年4月1日に統合が完了した。

学校目標を「自主・敬愛・勤勉」とし、質実剛健な生徒の育成を目指している。また、天竜峡公園、桜並木、小笠原書院の掃除や竜峡中学校今田人形座など、地域に貢献する活動も大切にしている。



⑨ 諏訪神社

元禄16年（1703年）建立の石碑には、諏訪大社から勧請されたことが記されているが、正確な勧請の時期は不詳。碑文から考えるとその時にはすでに、この地に祀られていたと考えられる。祭神は、建御名方命（タケミナカタノミコト）。

沿革によれば、明暦3年（1657年）、北部御射山原にあった辻大明神を合祀。神殿は大正4年、下宮・上宮八幡宮を合祀した時、下宮八幡宮の神殿を移築したもの。

昭和3年、社格制が廃止され、氏子（5区～8区）による経営となる。そして平成17年、拝殿を修理、玉垣が新設される。

例祭は、春季が4月8・9日、秋季が10月8・9日である。



⑩ 竜西一貫水路

竜西一貫水路は昭和16年県営竜西農業水利事業として採択され、昭和23年国営竜西一貫水路事業に移行して施工を重ねた。中部電力南向発電所放水路より取水し、天竜川をくぐって右岸の大島から川路八区まで1市2町を通り幹線水路総延長23,927m、受益面積1035ha（H6）を潤している。

